

オーストラリア学会 2016 年度全国研究大会のご案内

開催日:2016 年 6 月 11 日(土)・12 日(日)

会場:和歌山大学(〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930)

\* 交通アクセス・キャンパス案内、ならびにホテルの案内は 3 ページをご参照ください。

■ 第 1 日 6 月 11 日(土)

- 10:00~12:30 理事会(経済学部南棟 1 階 107)
- 13:00 受付開始(観光学部棟 2 階 T101 多目的ホール)
- 13:30 開催セレモニー(観光学部棟 T101)
- 司会 永野隆行(オーストラリア学会副代表理事・獨協大学)
- 開会挨拶 福嶋輝彦(オーストラリア学会代表理事・防衛大学校)
- 開催校挨拶 藤田武弘(和歌山大学観光学部長・国際観光学研究センター長)
- オーストラリア大使館・豪日交流基金様よりご挨拶
- 14:00~14:45 特別講演(豪日交流基金助成)(観光学部棟 T101) \* 同時通訳あり
- “Indigenous Australia in the British Museum: Things, People and Histories in Transit”  
マリア・ニュージェント(東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授)
- 15:00~17:30 豪日交流基金助成シンポジウム I (観光学部棟 T101) \* 同時通訳あり
- 「オーストラリアにおけるツーリズムの諸相: アイデンティティの表現と文化交流をめぐる可能性と課題」
- コーディネータ: 吉田道代(和歌山大学)
- 司会: 東悦子(和歌山大学)
- 報告者: 加藤久美(和歌山大学) “Our whales in our waters: Australia’s transition from whaling to whale watching”
- フレヤ・ヒギンズ=ディスビオルス (南オーストラリア大学) “Encounters at a sharp cultural interface: The case of Indigenous Australian tourism”
- 吉田道代(和歌山大学) 「シドニーの LGBT ツーリズム—ゲイ・アンド・レズビアン・マルディグラに焦点を当てて」
- 討論者: 永井隼人(和歌山大学) 質疑応答
- 18:00~19:30 懇親会(大学会館第 1 生協食堂)

■ 第 2 日目 6 月 12 日(日)

- 9:15 受付開始(観光学部棟 2 階 T101 多目的ホール)
- 9:30~11:15 一般個別研究報告・テーマセッション
- 9:30~11:15 第一分科会(経済学部講義棟 1 階 E103)
- 10:00~11:15 第二分科会(経済学部講義棟 1 階 E104)
- 11:25~12:00 特別企画1: 「父、藤井富太郎に見る、オーストラリアと日本とのかかわり: 『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』の出版にあたって」(経済学部講義棟 1 階 E102)
- 11:30~12:50 特別企画2: 写真展
- 「村上安吉(1880-1944)のライフストーリー: 濠洲から郷里和歌山の母に送った写真をとおして」(附属図書館 3 階 紀州経済史文化史研究所展示室)
- \* 津田睦美(写真作家・成安造形大学教授)先生によるツアー(第1回 11:30~11:50、第2回 12:30~12:50)を開催(所要時間約 20 分)。
- \* \* 紀州経済史文化史研究所展示室の開所時間は 11 日(土) 10:00~17:00、12 日(日)はツアー時間以外未定。
- 12:00~13:00 昼食休憩(経済学部講義棟 1 階 E105・ラウンジ) / 理事会(経済学部南棟 1 階 107)
- 13:15~13:45 総会(観光学部棟 T101)
- 14:00~16:30 豪日交流基金助成シンポジウム II(観光学部棟 T101) \* 同時通訳あり
- 「『境界』を越える人びと: 豪北部海域における人の移動と境界管理」
- コーディネータ(司会): 鎌田真弓(名古屋商科大学)
- 報告者: 永田由利子(クィーンズランド大学) “Okinawan Contract Labourers in the Pearl-shell industry in Torres Strait: 1958-1961”
- ナターシャ・ステイシー(チャールズ・ダーウィン大学) “Transboundary small-scale

fisheries in the Timor and Arafura Seas region of Northern Australia”  
飯笹佐代子(青山学院大学)「密航という選択—ボートピープルと境界」  
討論者:村上雄一(福島大学)、長津一史(東洋大学) 質疑応答  
閉会挨拶

16:30

◆昼食:会場付近の飲食施設は非常に限られています。キャンパス内では、11日(土)には学生食堂(第一食堂)が11時から13時30分まで営業しております。12日(日)にはキャンパス内の食堂は営業しませんので、ご注意ください。

\*プログラム等に変更される可能性があります。また、本大会開催(特別講演、シンポジウムⅠ、シンポジウムⅡ)にあたってオーストラリア大使館・豪日交流基金よりご支援をいただいています。



## 2. 2016 年度オーストラリア学会特別講演・シンポジウム・特別企画概要

### 特別講演

Indigenous Australia in the British Museum: Things, people and histories in transit

Dr. Maria Nugent

2015-16 Visiting Professor of Australian Studies, University of Tokyo Australian Centre for Indigenous History, School of History, RISS

ANU College of Arts and Social Sciences, The Australian National University

Last year, the British Museum in London staged a landmark exhibition, Indigenous Australia: Enduring Civilisation. The exhibition presented the deep history of Indigenous Australia through the Museum's extensive collections of Aboriginal and Torres Strait Islander objects complemented by some contemporary artworks. Ongoing sensitivities about the ways in which the Museum's collections were acquired during the colonial period contributed to repeated calls for the return of certain items. Other Indigenous spokespeople took a different view. They stressed the value of museum collections for recuperating diverse histories of Indigenous people, including earlier visionary engagements with Britain and the world. This paper uses the exhibition and the issues it raised to reflect more broadly on things, people and histories in transit

### シンポジウムⅠ 「オーストラリアにおけるツーリズムの諸相: アイデンティティの表現と文化交流をめぐる可能性と課題」

多くの先進国で経済活動の中心が農業・工業からサービス業に移行するのに伴い、ツーリズム(観光)はオーストラリアにおいて重要な産業として成長・拡大し、多様化してきた。このようなオーストラリアのツーリズムの中で、本シンポジウムでは、民族性やセクシュアリティ、環境イデオロギーに根ざしたアイデンティティや文化と関わるツーリズムに焦点を当てる。このようなアイデンティティや文化がツーリズムにおいてどのように表現されるのか、そして、異なるアイデンティティや文化を持つ人々の間でのツーリズムを通じた交流は、これらの人々の相互理解を促しうるのか。その可能性と課題について、オーストラリアから先住民ツーリズム研究の第一人者であるフレヤ・ヒギンズ=デイスビオルス博士を迎え、ツーリズム研究を専門とする報告者・討論者とともに、考察・検討する。

### シンポジウムⅡ 「境界」を越える人びと: 豪北部海域における人の移動と境界管理

東南アジアとオセアニアをつなぐ豪北部の海域は、豊かな漁場であり、交易のルートであり、人びとが行き交う場であった。ナマコをめぐるマカサンとアボリジニの交易や、真珠貝漁における日本人ダイバーの活躍など、アジア系の人びとの越境移動は、オーストラリア史的一幕として良く知られる。他方、アジア系契約労働者の入国管理や日本船のアラフラ出漁、近年のいわゆる「ボートピープル」問題やインドネシア漁民による不法操業取締

など、オーストラリアにとって当該海域は「不法侵入」を阻止する場であり、この地域での境界管理は重要な政治課題として認識されてきた。

本シンポジウムでは、移動する側の観点から「境界」を捉え直し、豪北部海域を分断する「境界」の様態を歴史的・複眼的に考察するとともに、それらの移動がしばしば「非合法的な越境」に転化される過程を実証的に描き出す。また、本シンポジウムの報告者・討論者はオーストラリア研究者とインドネシア研究者から構成され、地域研究としての「オーストラリア研究」の相対化を試みるものである。

### 特別企画1 「父、藤井富太郎に見る、オーストラリアと日本とのかかわり:『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』の出版にあたって」

本企画は、『最後の真珠貝ダイバー 藤井富太郎』(青木麻衣子・松本博之・伊井義人共訳)の出版にあたり、オーストラリア・木曜島から、原著者であるリンダ・マイリー(Ms Linda Miley)さん、および本書の主人公である藤井富太郎氏のご家族をお招きし、トレス海峡における真珠貝産業の歴史やそのなかでの日本人とのかかわりを、個人の思い出を交えつつ紹介する。藤井富太郎氏は、戦前戦後に木曜島を舞台に真珠貝ダイバーとして活躍し、晩年は、同地で若くして亡くなった700以上の日本人の墓を管理するなど、常に日本とのかかわりを持ち続けてきた。その功績から、1978年には、勲六等瑞宝単光賞を授与されている。また、司馬遼太郎『木曜島の夜会』にも、主人公「藤井富三郎」として登場する。本企画では、富太郎氏の長男アキラさん、長女タマヨさん、次女チオミさんら家族から、富太郎氏との思い出や日本とのかかわりをお話いただく。

### 特別企画2 写真展「村上安吉(1880-1944)のライフストーリー: 濠洲から郷里和歌山の母に送った写真をとおして」

戦前オーストラリアに移民した村上安吉のライフストーリーを、村上の三女、南ヤス子氏が所蔵する未公開写真コレクションを中心に、各種資料、証言映像を添えて紹介する。

村上は、串本町田並生まれ、1910年あたりからブルーム、ダーウィンで、日本人コミュニティのリーダー(日本人会会長)として活躍した人で、堪能な英語と温和な性格から、現地では「あらゆる人種と友好的につきあえる人物」と称された。また、営業写真師、潜水システムの発明家、ベンチャー企業家(養殖真珠)といった多彩な顔を持ち、今日、ANUの“Australian Dictionary of Biography”に記載されている数少ない日本人のひとりである。

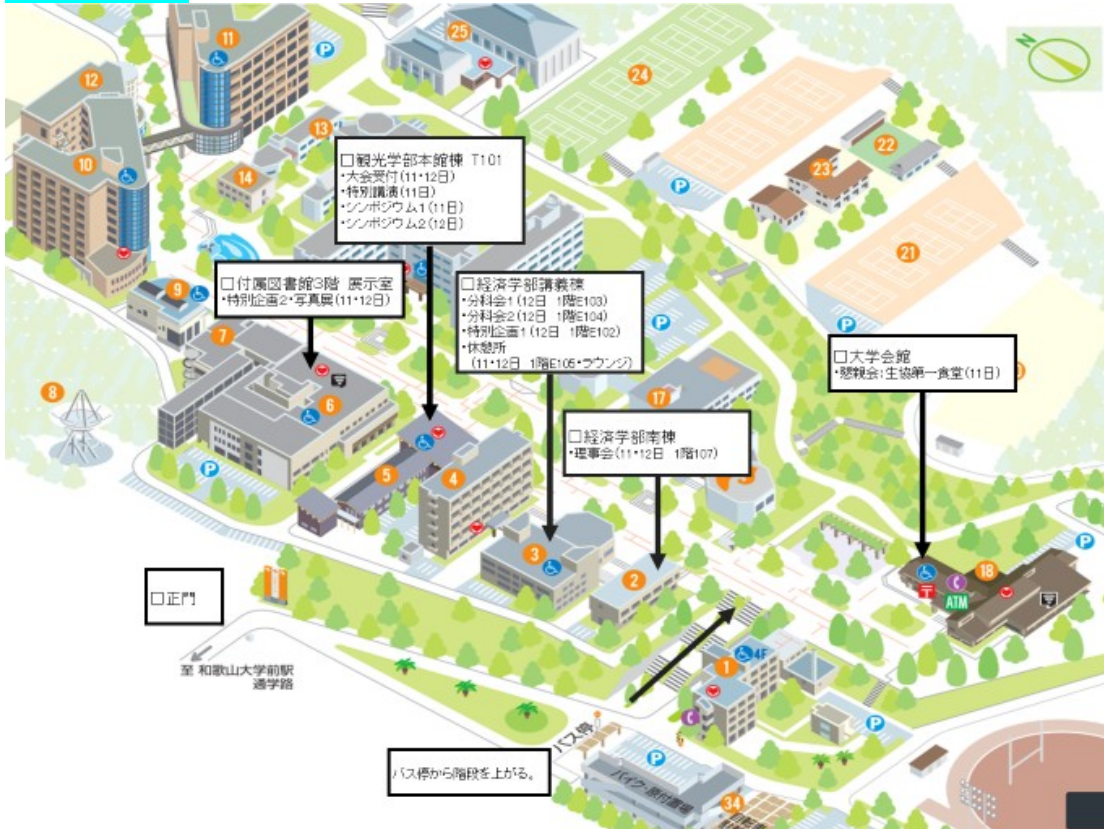
1944年、敵性外国人として抑留されていたタツラ収容所で病死。不運な時代に翻弄され、その業績が報われることなく、和歌山でもほとんど語られてこなかった村上安吉のことを、本展をとおして少しでも多くの方に知ってもらいたいと願っている。

## 3. オーストラリア学会第26回全国研究大会 会場のご案内

### 交通アクセス

- ・大学へのアクセスについては大学 HP「交通アクセス」(<https://www.wakayama-u.ac.jp/about/access.html>)をご覧ください。
- ・伊丹空港から南海電鉄「和歌山大学前」駅・「和歌山市」駅、JR「和歌山」駅へ向かう場合には、それぞれ難波駅行(南海電鉄「難波」駅前に停車)、天王寺行(JR「天王寺」駅前に停車)のリムジンバスをご利用いただくのが便利です。
- ・南海本線では、「特急サザン」(30分に1本、指定席以外は特急券の別途購入不要)が、「和歌山大学前」駅と「和歌山市」駅に停車します。
- ・南海電鉄「和歌山市」駅発の和歌山大学行バスもありますが、本数が少ないので注意してください。JR「和歌山」駅から和歌山大学に行く際には、バス(所要時間約30分)が便利です。
- ・南海電鉄「和歌山大学前」駅、「和歌山市」駅、JR「和歌山」駅と和歌山大学間のバスの発車時刻については、大学 HP「交通アクセス」で紹介されている Web アプリ「和発着バス時刻案内」をご利用になれます。スマホの方はご活用ください。
- ・南海電鉄「和歌山大学前」駅からは徒歩で大学まで到達できます(約20分)。

## キャンパス案内



### 宿泊施設

会場までの交通の便が良いのは、JR「和歌山」駅周辺および南海電鉄「和歌山市」駅周辺の宿泊施設となります。宿泊施設は各自ご手配ください。

#### <JR 和歌山駅周辺ホテル>

- ・ドリーミン Premium 和歌山
- ・ホテルグランヴィア和歌山
- ・コンフォートホテル和歌山
- ・東横イン JR 和歌山駅東口

#### <南海電鉄和歌山市駅周辺ホテル>

- ・ダイワロイネット和歌山
- ・アパホテル和歌山

## 4. 2016 年度オーストラリア学会全国研究大会 一般個別研究報告者および報告要旨

第 1 分科会:(9:30~11:15 経済学部講義棟 1 階 E103)

司会 塩原良和

(報告1)

堤純(筑波大学)

「シドニー大都市圏におけるエスニックグループ別のセグリゲーション」

(要旨)本稿はシドニー大都市圏を対象に、主要なエスニックグループの増加プロセス、住み分けの状況、および社会経済的な特徴を把握した。使用したデータは、国勢調査のカスタマイズデータである。増加の著しいアラビア語系やベトナム語系住民などは、低所得者の多い地域に集中する傾向にある。一方、標準中国語や広東語を話す人口は、低所得者の多い地域のみならず、高所得者の多い地区にも相当数が進出していることがわかった。

(報告2)

南貴子(和歌山県立医科大学医学部)

「生殖補助医療によって生まれた子の出自を知る権利を巡る課題—オーストラリア・ビクトリア州の事例をもとに—」

(要旨)オーストラリア・ビクトリア州では 1984 年に世界に先駆けて生殖補助医療を包括的に規制する法律が施行され、生殖補助医療によって生まれた子の出自を知る権利が認められることとなった。その後も法改正が重ねられ、子がドナーについて知る権利の拡充が図られてきた。本報告では、2015 年 11 月にビクトリア州議会に上程された改正法案を中心に生殖補助医療の制度に関する最新の動向を分析し、ビクトリア州の事例を通して、子の出自を知る権利を巡る課題について明らかにする。

(報告3)

木村友彦

「東ティモール軍事併合問題とフレーザー政権の外交政策」

(要旨)本報告は、隣国インドネシアのスハルト政権が東ティモールの軍事併合政策を進めた問題に際してのフレーザー政権期のオーストラリア外交について、政権発足から併合を承認した 1978 年までを対象に考察する。そして外交政策決定の特徴や資料的問題などにも触れた上で、フレーザー政権がインドネシアとの関係を重視し問題の根本的解決は放棄しながらも、国内世論なども意識し東ティモールの民族自決権を支持する政策も続けようとしたことを考察する。

第 2 分科会：(10:00～11:15 経済学部講義棟1階 E104)

司会 村上雄一

(報告1)

宮崎紗織(大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程)

「オーストラリアと日本の先住民族政策—文化享有権分野における自決権保障」

(要旨)オーストラリア及び日本の先住民族の人権状況につき、先住民族の自決権保障の観点から両国の先住民族政策を比較し、国際人権法に照らして分析を行う。分析に当たっては、特に文化享有権分野に焦点を当て、条約、国内法、国際人権機関の勧告、政府報告書を中心に扱う予定である。政策の比較を通じて、今後日本における先住民族政策の在り方に関する示唆にはどのようなものがあるかを検討する。

(報告2)

平野智佳子(神戸大学大学院国際文化学研究科)

「生活給付金の現金化のプロセス—中央砂漠のアボリジニの事例から」

(要旨)中央砂漠のアボリジニ社会が抱える飲酒問題、その要因の一つとして、生活給付金が酒の資金源となっていると指摘されてきた。2007 年、北部準州緊急措置法では生活給付金に様々な制限が課せられ、酒は買えなくなった。ところが、今も生活給付金は酒の資金源であり続けている。発表者の調査地でも生活給付金は現金へ、そして酒となって消えていく。本発表では、生活給付金の現金化のプロセスに着目し、そこから現金化を可能にするモノやヒトの相互作用を明らかにする。